

わたしたちの同窓生

<99周年>

会員数 28,228名

平成10年4月1日 現在



同窓会報

椎の樹

1998. 4. 1 第12号

発行所 群馬県立高崎女子高等学校

同窓会

高崎市稲荷町20 電話 (027) 362-2585

発行責任者 齋藤 民

印刷所 ほその印刷



ご挨拶
同窓会長 齋藤 民

平成10年の新しい年を皆様ご健勝にてお迎えの事とお喜び申し上げます。
ここ2・3年暗いニュースばかり続きましたが本年こそ明るい爽やかな年にしたいものとお願いいたしております。

同窓会の年間行事もおかげで無事終了し平成10年度の新しい活動に入っております。
昨9年度5月1日の総会には、旧師「持田章」先生に母校90年誌発行にまつわるとご苦労話をお話いただき、この度の同窓会の記念誌編集についてのご指導をいただきました。

10月25・26日の研修懇親旅行は旅行委員の皆様のおかげで二・三年生各九学級、一年生八学級で出発した平成九年度も、大きな成果を収めて十年度を迎えることができました。これも、会長齋藤民先生のもと、生き生きと、豊かで創造的な活動を展開なさっている同窓会の皆様、温かいご理解と変わらぬご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

1時間12分10秒に高女100年の伝統



校長 小栗 宣明

百周年事業につきましては、十一月五月に向けて、学校としても少しずつ具体化しつつあります。生徒の活動では、五月の高校総体等における山岳・水泳・陸上部を始めとする運動各部の活躍、十月の高校総合文化祭や各種大会での音楽・書道・美術等文化各部の活躍、山岳部の全国大会八位、全国

日新入会員をお迎えして心新たに本年度の諸行事に向けて進んでまいりたいと存じます。さて母校100周年もいよいよ1年後に迫ってまいりました。100周年という千載一遇のこのよい時に巡り会わせた者として、105歳103歳というご高齡の先輩の方々から10代の若い方々まで各期毎に母校への思いをお寄せいただきました。まことに有難う存じました。記念誌発行委員の皆様は、只今懸命に編集に取り組んでおられます。尊い素晴らしい記事が出来るようになりますようにご期待下さいませ。
尚、記念事業として同窓会では、演奏会・邦楽・洋楽、その他各種の展示会等を予定いたしております。何卒皆様のご協力ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

高校駅伝の初出場二八位、全国文芸部誌コンクール優秀賞など、高女の伝統を継承し発展させつつあります。
駅伝の出場に際しましてはとりわけ会員の皆様は温かいご理解と力強いご協力をいただき、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

この一瞬に百年、二万七千人の力が結集されたのであり、伝統とはかかるものなのだとつくづく感じたものでした。デザインから糊づけまですべて生徒手作りの応援の小旗にみるごとく、心の細やかさ、友情の厚さ、短期間になし遂げる集中力など、高女の伝統は見事に躍動しています。このように、自らを律すること厳しく他には優しく、謙虚に学び続ける賢い高女生こそ世の宝であり、その育成が私達教職員の最大の課題と覚悟し、努力していく所存です。

母校創立100周年いよいよ来年に!

同窓会総会

平成9年5月1日(木) 母校・椎樹館にて



恒例となった母校開校記念日の5月1日、この日のために畳替えされた椎樹館大広間で同窓会総会が開かれました。

三三五五の昼食のあと、午後1時開会。吉村副会長の開会のことば、齋藤民会長の挨拶の後、新任の小栗宣明校長の挨拶、羽鳥修司PTA会長、清水英徳教育振興会会長から御祝辞をいただきました。

平成8年度の事業経過報告、会計決算報告、会計監査報告がなされ、平成9年度事業計画と予算報告が承認されました。続いて、会報編集委員会からの報告、旅行企画委員長の旅へのお誘い、椎樹祭準備委員会から書道展への出品依頼、京浜地区同窓会から参加の呼びかけがありました。

100周年の記念事業、記念誌についての報告と連絡、いよいよ大詰の時期に入りました。今年も同窓会から美しい蘭のアートフラワーが届けられ文字どおり会場に花が添えられました。最後に校歌を合唱、いつのまにかハーモニーが生まれます。吉野烈子副会長のことばで閉会いたしました。

今年3年ごとの役員改選の年に当り、事務局から報告がありました。推薦委員会会長、女26回の戸塚 咲さきさんの推薦により齋藤民さんを同窓会長に、副会長に角田智恵子さん、吉村晴子さん、吉野烈子さんが再選され、拍手をもって承認されました。

新年会開催

神田婦美子(高21回)の準備の模様を述べられました。恒例の新年会が、2月8日240余名の同窓生の参加を得て、高崎ビューホテルで開催されました。始めに齋藤民会長の御挨拶、乾杯で祝宴が始まり、それぞれのテーマに思い思いのトラクションへと移りました。甲本順子さん(高19)のソプラノ独唱、塩谷景子さん(高35)のピアノ伴奏で、「からのちの花、イル・バァー」の曲に耳を傾けました。五十嵐加那江さん(高20)は、「日舞(東都獅子)」で目を惹かせてくださいました。同窓会合唱団は、指揮小川久美子さん(高18)、ピアノ伴奏田村節子



挨拶があり、来年度の創立100周年に向けての思いと、記念行事の準備の模様を述べられました。続いて、小栗校長先生と鹿野教頭先生から御祝辞を頂き、現高女生の活躍の様子を伺い知ることができました。外山事務長の乾杯で祝宴が始まり、それぞれのテーマに思い思いのトラクションへと移りました。甲本順子さん(高19)のソプラノ独唱、塩谷景子さん(高35)のピアノ伴奏で、「からのちの花、イル・バァー」の曲に耳を傾けました。五十嵐加那江さん(高20)は、「日舞(東都獅子)」で目を惹かせてくださいました。同窓会合唱団は、指揮小川久美子さん(高18)、ピアノ伴奏田村節子

同窓会入会式

入会のことば

橋本真樹 (新入会員代表)

今、本校に在学した三年間を振り返りますと、多くの感動が「コマ」コマ鮮明に蘇ってきます。常に私たちに励まし勇気づけてくださった先生方、優しく見守ってくれた家族、ともに感動を築き上げた友人など、多くの人たちの愛情に支えられて充実した三年間を過ごすことができました。ここに改めて感謝申し上げます。

さて、私たちはこれから長い歴史と伝統のある高女の同窓会の一員としてさまざまな道を歩き始めます。同窓生としての誇りと責任を持ち、伝



統を受け継ぎさらに発展させていくよう努力していきたいと思っております。
とは、私たちがまだまだ未熟です。今後いろいろなとお世話をおかけすることも多いと思っておりますが、ご指導の程をよろしくお願い申し上げます。(平成十年三月二日)

### 1997年度総会記念講演

## 「高女九十年史を語る」を聞いて

丸山ちひろ(高21)  
阪神ファンの持田先生は、「一昨日まで腰を痛めていたが阪神が勝ったので、起きられました。同窓会のために百年の記念誌の参考にアドバイスを語れば幸いです」と講演を始めてくれました。

記念誌編集委員の末席にいる私のペンを持つ手に力がいりました。

『九十年史』が出来るまで編集の経過

『九十年史』は九十年記念事業の一環として企画されました。昭和六十一年に編集委員会発足から平成元年十一月三年半で完成しました。委員会で役割分担をし、『高崎市教育史』のなかの高女の歴史を基本にして、編集作業を進めました。深夜の二時、三時まで執筆する事もありました。

◆組織作り  
編集の組織作りで大切なのは、役割分担です。いやなことでも割り切った役割を引かない、そういう役割を引かない人がいないといけない、この時は私がその役を受けた訳です。

◆資料集めとその検討  
膨大な資料があり、特に終戦直後のものは紙が悪く判読するまでが大変でした。

◆執筆要領と実践  
いざ書くとなると難しいものです。文体、数字の表記、敬称のつけ方等に統一性を持たせることが大事です。

◆脱稿と校正  
原稿の最終チェック(不統一をなくす、誤字等)をして印刷は上毛新聞にお願いし、校正は三、四回おこないました。体裁良く、寝ころがって読める本にしたいと上下二巻、布張りにしたい本が出来たと思います。題字も私が六つの書体で書き、皆さんに選んでいただきました。

◆製本完成  
四五〇〇部を印刷しました。二〇〇〇部位残ったが生徒にも頒布して捌かれていきました。各市町村の図書館にも寄贈しました。

### 文芸欄

**サンディエゴ紀行**  
洪井千代子(女44回)

雨降らぬ土地に断水の騒ぎなくあくまで青いサンディエゴの空  
スペイン系か東洋系か小麦色の肌輝かせ人等行き交う  
暑き日射し忽ち寒き夕暮れにブルーゲンベリヤは血の色をする  
海ありて海見る車あまたあり浜にはごみの一つなかりき  
スカンクが車にひかれし話聞くサンディエゴの都市ただ広々と

### Teacher

## 旧交を温めた「椎の実会」

平成九年十一月八日(土)高女旧職員の親睦会である「椎の実会」が魚仲を会場に開催された。末広町校舎時代、椎のみどりにつつまれ高女の教育に情熱を注ぎ楽しい日々をおくった仲間、六十九名が出席した。遠く秋田県から参加した戸沢正男(旧姓伊藤)先生をはじめ、県外からも多数参加され盛況裡に終了した。

この会は、高女を離任した職員有志により昭和五十年に行われたのが始まりで、のち「椎の実会」と呼称、現在は末広町校舎に勤務された全職員一七〇余名を会員として、隔年に開催され、今回が第八回である。よき仲間よき生徒たちと語りあい学びあった高女での充実した日々をもちに、気兼ねなく参加できる会として、毎回出席者は多い。次回



集が楽になります。最後に『九十年史』は①通史②縦割でも横割でも読める③資料の羅列をさける④読みやすい文体という四本の柱を骨子として作成しました。『百年誌』もこのようなスタイルで立派なものになっていってほしいと思います。

◆講師紹介  
角田智恵子(女39回)  
持田章先生(昭7高崎生れ)高崎高校を経て早稲田大学教育学部社会学科を昭和31年卒業後立富岡高校、中央高校を経て昭和51年から平成2年3月までの14年間高崎女子高校に勤務。生徒指導部長、教務主任等を歴任。校舎の全面移転計画等を手掛け最後に編集委員長として、「高女九十年史」を完成させた。平成2年4月前橋南高校教頭に就任し同5年3月定年退職。

著書 編集参加書「親馬鹿の記録」上下「高崎市教育史」「秀嶺様名案に」「高女九十年史」「中央高校創立十周年史」等。  
家族 妻、娘2人、孫4人。



有したよろこびと懐かしさを胸に、くみかわす盃やいたたく料理もひとしお美味しく、懐旧の念とともに、現在に生きる活力を一層高めるひとときであった。楽しい語らひは五時から三時間余、時を惜しむつつ吉田三郎先生の締めで終宴となった。お互いの健康を祈り、次回も元気で再会することを誓って散会した。

「松樹館」は、三蓋松雪つなぎの風情をかもしだしていた。

松樹・椎樹は、ともに気高き樹木で、先達の愛情の細やかさ、深さを語るにあまりあるシンボルであると改めて感じた。

論語巻第五に曰く「歳寒、然後知松栢之後彫也」  
一寒くなり、他の木々が落葉してはじめて、松・檜類の緑や存在にきづくものだ！

### 由縁

## 三代高女と共に

信越線で通った四年間。私が女学校に入学したころの制服は、三蓋松の袴でしたが卒業のころには洋服姿もちらほら、私もその中の一人だったように思います。

背が高かった私は、バレーボールを楽しんだ事が、心に残っています。

母と二代でお世話になった佐藤たけ先生には、校庭で、「高女生らしい、美しい歩き方」を教えていただきました。

〔由紀子〕  
吹奏楽同好会では、コンクールに向けて猛練習をしました。又私が一年生の頃からマール

## 松樹館だより

教頭 鹿野 福次

### 上寿を迎え 松樹館に思う

平成十年(戊寅)は穏やかな日和で始まったが、三学期開始と同時に三日置きに三度記録的な降雪に見舞われた。

高女卒寿の記念の館「松樹館」は、三蓋松雪つなぎの風情をかもしだしていた。

松樹・椎樹は、ともに気高き樹木で、先達の愛情の細やかさ、深さを語るにあまりあるシンボルであると改めて感じた。

論語巻第五に曰く「歳寒、然後知松栢之後彫也」  
一寒くなり、他の木々が落葉してはじめて、松・檜類の緑や存在にきづくものだ！



高女で知り合った友人とは卒業して、それぞれの道に進んだ現在でも、本音で語り合う事ができ、私の宝物です。

の方々にも可能ではと予想するだけで実施についての妙案などない。蔵守の一人が呟いている程度と聞き流していただきたい。学校は今、生徒という宝物を鑑定人に正しく評価させ、より値打ちのあるものにし、蔵全体の質を上げるべく一丸となって工夫・努力しているところです。

どうか同窓の皆様には、母校の飛躍・発展のため、今後とも絶大なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 高女同窓会

#### 一合唱団募集一

◎母校100周年で歌いましょう!!

練習・母校椎樹館  
・毎週金曜日

午前の部 AM10:00~12:00  
午後の部 PM 7:00~ 8:30

# 同窓会だより



## 横浜名所めぐりと小湊温泉グルメの旅

新井 光枝 (高22回)

絶好の旅行日和となった10月26日の朝、46名の同窓生は笑顔で挨拶を交わし心も浮きうきと高崎を出発。バスの中ではベテランのガイドさんの解説に時を忘れ、横浜ベイブリッジを走り三溪園に到着。ここが本牧かと驚くばかりの静けさの中、厳かな佇まいの日本庭園を散策しました。生糸商原三溪によって、京都、奈良、白川郷、鎌倉から集められた歴史的価値のある建造物が美しく配置され、聖武天皇、織田、豊臣の時代から昭和の茶室まで、日本の美の系譜をここで味わいました。昼食はヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルの最上階で、波静かな湾をゆく船を一望のもとに、海の見えるレストランの中を歩いたいただきました。極上のロケーション、贅沢なひとときを横浜を堪能し、一層の結束を固め、おおいに盛り上げましょう！

高22回代表幹事  
石井 圭子・芦沢美保子  
岡田 裕子・野村 勝恵

## 第46回京浜地区同窓会開催

毎夏恒例の京浜地区同窓会が七月六日、百名を超す同窓生の参加を得て、目黒雅叙園「驚」の間で催されました。林支部長の挨拶で始まり、角田同窓会副会長と小栗校長よりご祝辞を賜り、渡辺同窓会理事の乾杯で開宴。今回は和室で円卓を囲み、雅叙園名物の中華料理とおしゃべりを堪能しました。

世代を超えた交流、旧友との賑やかな談笑の中、メインイベントのマンドリン演奏へと移りました。高女OGで結成された「椎ノ樹マンドリンアンサンブル」のしらべは、心を和ませ、会場を魅了し大好評を得ました。

来賓の小屋先生、須藤先生、富所先生からは、高女時代のエピソードをまじえた懐かしく楽しいお話を頂きました。和室でのくつろいだ談話の中でまたたく間に時がたち、



最後は全員で「いい日旅立ち」高女校歌をマンドリン演奏にあわせて熱唱。各々の学生時代に想いを馳せたとこととで、高22回から高23回に当番期の引き継ぎが行われ、一年後の再会を約束して惜しみながらの散会となりました。

来年、創立百周年を迎える高女。京浜地区同窓会も、よ

### 旅へのお誘い

### 平成10年度 親睦旅行のお誘い

美術館めぐりと富士山を望む庭園ホテル

日時 10月18日(日)・19日(月) (参加費35,000円)

18日(日) 高崎(8:00)＝佐久乃おぎのや＝清里高原(清里北澤美術館)＝昼食＝忍野八海＝富士五湖鐘山温泉(泊)

19日(月) 鐘山温泉(9:00)＝久保田一竹美術館＝恵林寺(含昼食)＝ワイン工場見学＝佐久乃おぎのや＝高崎(18:15着)

申込9月1日(火)10時～15時 母校椎樹館 ☎027(362)2585

◆心が作り上げた感覚の夢  
第14回椎樹祭に、今回は書道展で参加しました。5月31日・6月1日椎樹館の大広間に24の作品たちは墨の香りもすがすがしく、訪れて下さる方々をお迎えしました。

創作とは心が作り上げた感覚の夢である。しかもその夢は心・人格・体という三層の皮膜で包まれている。一言われまます。各人が作り上げた夢の最新作を、皆様はどのようにご覧いただけましたか。多勢の皆様のご来場に出品者一同心より感謝申し上げます。

△出品者▽武内壽美子▽漢字／黒石けさ子▽かな／木暮美紗子▽漢字／吉村節子▽かな／磯部宏子▽かな／小野里康子▽詩文／網中富美江▽墨家／新井京子▽墨家／大井美津江▽墨家／鎌田照代▽漢字／塚越美智子▽詩文／石原茂美▽かな／林 和子▽詩文／渡邊

## 椎樹祭参加書道展

◇書道展に参加して  
武内壽美子(女34回)  
久しぶりの母校で、初めての事ですが無事に終わります様にと念じつつ、久しぶりに母校の文化祭に出掛けました。高校生の若い熱気に触れ、私も若返った様な感じがして、当時の事をあれこれと思い出しました。今思えば何の苦勞も無かった、生涯の中で最も幸せな一時期でした。女学校を卒業後、専修科で更に一年勉強する機会が得られました。専修科は現在閉講になって居るのと事で残念に思っています。今、今椎樹祭で松樹館に案内していただきましたところ、専攻科第十二回終了生の写真が飾られて有りました。私は第十一回です。幻のお教室でなかった事は大変幸せでございました。小栗校長先生にも親しく御傍に同席できました事、又斎藤会長様や幹事役員の方々にお世話様になりました。同級生同士はお互い自分の姿を映す鏡の様なものですね。学生時代の親しさが何とも言われず現在に続いていました。長い間別れていても逢えば学生時代に戻ってしまふ不思議な気分でございます。また趣味を同じくする方々の作品も、ゆっくり鑑賞



させて頂きまして、ご好意に深く感謝申し上げます。皆様のご健康と母校の益々のご発展をお祈り致します。  
(東京都板橋区在住)

## 期別活動

◎伊香保傘寿の旅  
奥田悦子(女32回)  
行く水に、雲は流れて。私も高女32卒業組は、昨年と本年は世にいう、傘寿をむかえましたので例年おこなってまいった一泊のクラス会は豪華に伊香保の上級ホテルでは如何かということになり、角田(佐藤)さんのお手配で五月におこないました。地元から数名の他浜松、東京、埼玉の遠方からの出席もあってにぎやかで楽しい一夜を過ぎました。翌日は水沢観音に参詣して友人皆の日々の無事を祈念した後名物の「水沢うどん」で昼食をとり散会しました。皆が新緑の山の気配に心身が、リフレッシュされたといえそう満足の様子でした。行く水に雲は流れて現世の刻の流れに身をゆだねゆゆく磯部なる雀のお髪白き十四名の高女の友と。希望あれば常に若しの言葉あり目標もちて八十路歩まら運び記しました。

◎上高地日帰り旅行  
大井八重子(高5回)  
梅雨の晴れ間の平成9年6月7日高5回卒業生47名はバ



スに乗り、高崎駅を七時三十分に出発しました。更埴JCTをおりる頃には、昨日迄降っていた雨も雲一つなく晴れ渡り、アルプスが一望にみえラッキーな一日でした。上高地に着いてからは大正池で降りる組と河童橋まで乗る組とに分かれ自由散策とし大正池で降りた私達は、澄みきった風の中で食事をしながら、焼岳を目前に大噴火によって出来た落葉松の残骸等々見なれた景色が目に見え込んできて又感激。オンドリが、手のとどく所迄寄ってきてエサをねだるのを見て、上高地に来る人の多さを感じ自然保護には気がつけなければと痛感しました。梓川ぞいに落葉松林をくぐり途中田代池に立ちより又々感激。静まりかえった神秘的な渾身の池に、岩魚が一匹泳ぎそのすぐ側をオンドリが、静かに泳いでいる不思議な光景を目にしながら、木もれ日の中を歩き、めざす河童橋に着きました。同窓の皆も三三五五集まっており、今日渡り初めのあった橋をバックに、ニコニコ顔の友とシャッターを切っております。橋の上からみる明神岳、穂高の山々は目前にせまり一幅のすばらしい絵をみている様で「すごいー」の一言しか出ず、カメラ



のシャッターを夢中で切っております。松本城にもより信州手打そばを食へ帰路に着きました。又一年後の出逢いを約束し、すばらしく楽しかった旅行の一頁をとじました。

◎初めての同窓会  
神保悦子(高24回)  
平成九年八月二十三日、椎樹館で卒業して初めての同窓会を開きました。末広町にあった校舎で学んだ私達にとって、稲荷町に移転した校舎を知らない人が多くいるだろうということ、椎樹館で開催しました。山岸松子先生、山口聰先生、松本和子先生をお迎えして、同窓生百二十三名の参加のもとに、盛大に開くことができました。二十五年ぶりの再会とあって、会が始まる前から、あちこちでにぎやかな話声が聞こえていました。校歌斉唱が始まると、とても美しい歌声が流れ、それぞれが高校時代にタイムスリップしているようでした。三名の先生方の御挨拶の中の思い出話や近況報告を聞いているうちに、懐かしさと笑いが会場に広がりました。近況報告をする、「あら、〇〇さんだわ。彼女も出席していたのね。」「〇〇さんは、高校時代と変わらないうね。」等の声が聞こえて、さらに話に花が咲きました。最後に三クラス毎に先生を囲んで記念撮影をすました。閉会後も話が尽きず、いつまでも椎樹館に明るい声が響いていました。



# 同窓会 総会開催のお知らせ

うらかな春の陽の中、心地よい風を迎える季節となりました。同窓の皆様にはお元気でお過ごしのことと存じます。さて、恒例の総会を下記により開催いたします。

お誘い合わせて、多数ご参加くださいますようお願い致します。

日時 平成10年5月1日(金) 12時より

場所 母校 椎樹館

日程 12:00~13:00 昼食  
13:00~13:40 総会  
14:00~15:30 講演  
講師 細井千代吉先生(元高女教諭)

演題「病弱養護学校勤務を経験して」

会費 1,000円

※期別幹事は必ずご出席下さい。  
◎ 同窓会維持費中間報告 (H10. 1. 19現在)

〔収入の部〕

維持費納入金	4,649,158円
〈納入人数	4,819人〉
預金利息	3,146円
計	4,652,304円

〔支出の部〕

会報椎の樹12号	1,400,000円
印刷代 発行諸経費(予定)	500,000円
本部会計補助	500,000円
百周年準備費等	300,000円
計	2,200,000円
残額(予定)	2,452,304円

前年度までの維持費合計 1,645万円は100周年基金として積み立てられています。

同封の振込用紙に卒業回期を明記のうえ、年間1,000円の納入をお願いします。

12月の陸上部駅伝全国大会参加の募金では、各期よりご協力いただき142万円集まりました。初出場でしたが、生徒もチーム新記録の走り、28位と頑張りました。ありがとうございます。



## 事務局だより

平成10年度行事予定

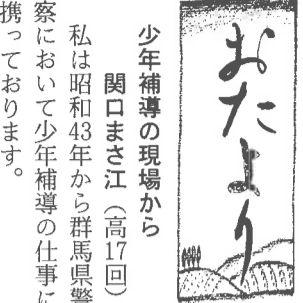
5/1(金)	総会および講演 母校椎樹館
10/18(日)~19(月)	親睦研修旅行 長野・山梨方面
1/31(日)	新年会 高崎ビューホテル
3/1(月)	新会員入会式 母校椎樹館
4/1(木)	会報13号発行

- ※会議
- 1) 常任幹事会
  - 2) 期別幹事役員会
  - 3) 旅行企画委員会
  - 4) 会報編集委員会
  - 5) 合唱団運営委員会
  - 6) 記念誌刊行委員会
  - 7) 音楽会実行委員会
  - 8) 邦楽発表会実行委員会
  - 9) 展示催物実行委員会
  - 10) 当番期会議(H22)
  - 11) その他
- ※総会、旅行、新年会、合唱等諸行事へご参加ください。

## 母校の近況

平成9年度より生徒減少により8クラス(320人)の定員になりました。山岳部など活動も活発です。進路面では、ほぼ全員が大学進学希望で目標に向けて努力を積み重ねています。

- ◎ 教職員人事異動
- ◇ 転出された先生(敬称略)
    - 教頭 鹿野 福次(下仁田校長)
    - 教頭 大栗 勇一(県教委)
    - 数学 渡辺 やよい(富岡)
    - 数学 渡辺 清子(藤岡)
    - 美術 渡辺 大川(前橋)
    - 家庭 萩原 弘和(県外交流、新潟中央)
    - 英語 金井 英子(富東)
    - 事務 山口 晴夫(前橋清陵)
    - 事務 丸山 正樹(前橋清陵)
  - ◇ 転入された先生(敬称略)
    - 教頭 上野 臣吾(前南)
    - 数学 三浦 盛代(高北)
    - 美術 土屋 絵里(新採用)
    - 家庭 諏訪 幸男(生涯学習センター)
    - 事務 小堀 光弘(沼田)
    - 事務 堀田 ち子(富東)
    - 事務 須田 洋子(新採用)
    - 英語 梶原 復(敬称略)
    - 英語 鈴木 千春(新潟国際情報)



少年補導の現場から 関口まさ江(高17回)

私は昭和43年から群馬県警察において少年補導の仕事に携っております。

群馬県警察には女性の職種として婦人警察官や交通巡視員の他に、私の様に非行少年等への指導助言や少年相談に関する仕事を専門に行っている婦人補導員という職種もあります。私はこの職に就き今年で30年目を迎えますが、これから仕事を迎えますが、これから仕事を迎えるに感じている事や非行の実態についてお話ししたいと思います。

最近の非行状況を見ますと、非行の中心が中・高生となっており、チーマーや暴走族、ローラー族といった非行集団による恐喝(脅かして金品を巻き上げること)や暴行、傷害事件が増加しています。

チーマーとは、渋谷のセンター街が発祥の地と言われているのですが、深夜から明け方まで集団を誇示しながら繁華街等にたむろする非行少年のグループで、レディース(女子)のみならず、男子も出現し、県下では約21グループ、七百人位がいます。これらグループは遊ぶ金に困ると通行人等に因縁をつけ、金品を脅し取ったり、危害を加えたりします。

ローラー族とは、お祭りや歩行者天国等の街頭でユニフォームに身を包み、ロックンロールに興じているグループです。これら集団に入ると、なかなか抜けられず、抜けようとした高校生が仲間仲間リンチに遭い、命を失った事件も起きました。又、親が全く気付かず、ごく日常の生活の中で、援助交際と称してテレビ番組で知り合った不特定多数の男性とホテルへ泊り歩き、貰った金銭でアクセサリーやバッグ等を買って込み込み友達に自慢する高校生もおりました。こうした高校生は非行は、交友関係が原因で転落の一途を辿るケースが多く、喫煙、夜遊び等がきっかけで、家出不健全な異性交遊、更には盗みや恐喝等の犯罪に発展していき

しきや不安を言葉の端々に現かせ、表面は突張っていても将来に対するあせりと不安、学校・家庭内の人間関係等、様々な問題を抱え悩んでいるのです。これら少年達の声にならない心の叫びをキャッチし、少しでも少年達の支えになればと願う毎日です。



◎ 同好会活動 金井幸子(高3回)

平成5年の椎樹祭後にスタートした写真同好会は、折々の季節をカメラにおさめたり素晴らしい写真で目の学習をしたり、遅々たる歩みながら和気藹々、大いに楽しんで参りました。

昨年5月、望月清世さん(高2)の御紹介で群馬芸術文化協会顧問・上毛写真連盟常任顧問の飯塚誠氏をクラブの顧問にお迎えする事ができ、写真「虹」とクラブ名もつき本気で撮影を始めました。

母校創立百周年を11年に迎えるに先立ち、作品展の声をあがり去る10月24日~29日に高崎シティギャラリーで発表いたしました。

11名の会員が一人3点ずつをという事になり、飯塚氏と望月さんからの特訓の結果、全紙にしても耐えられる作品がどうにか揃いました。

ラジオ高崎や上毛新聞等の紹介もあり、会長の斎藤氏先生を初め大勢の同窓生、市内は勿論県内の写真愛好家等多勢の方々に御高覧頂き、「素晴らしい」のおほめの言葉を頂戴し、一同肩の荷をおろしました。

これからは、年一回の発表を目標に心をひき締め次回に備える事にしました。初心を忘れず、美を感じ、それを表現できるような心と技を磨きたいと痛感しております。

他「利根川のはじまり探険」(小峰書店刊・千八百円)も出版されています。

▼ 写真「虹」

第二回作品展を来る七月二十四日(二十九日)、高崎シティギャラリー二階第六展示室で行います。皆様、お出掛けください。

同窓会記念誌刊行委員会からお願い

前号で既にお願いたしましたとおり、記念誌への執筆原稿は三月末迄に卒業回期毎に提出していただきました。

女学校12回卒で百五歳になられた新野カツ様をはじめ、女24回卒までの代表の方には、刊行委員が訪問して聴き取りし、原稿にまとめました。順次編集作業に入っておりますが、遠い昔の女学生姿が生き生きと語られる度にしばしば感嘆の声。提出された各期の原稿も、それぞれの時代を反映した内容の濃いものと期待されます。恩師からの特別寄稿やクラブOG会、同窓会活動のあゆみや写真掲載もあります。毎月編集会議を開き、本年十二月完成をめざして作業を進めておりますので、出来上りましたら期別毎に幹事さんを中心として、皆様に購入のご協力をお願い致します。

特に遠隔地の方は予め、ハガキにて各期別幹事宛または高女同窓会事務局宛に購入希望の仮申込みをしておくことをお勧め致します。必ず卒業回期と電話番号をご記入ください。

価格・送料等の詳細は次号に連絡致します。

洋楽部門

浜 章子(高14回)

洋楽関係では音楽センターで合唱、独唱、独奏等の演奏会を行います。

特に合唱の部では、斎藤氏、橋本節子両先生の指導のもとに松本(高14)、小川(高18)と浜で、すでに練習を開始しております。毎週金曜日午前10時~12時、午後7時~8時半の二回、母校椎樹館で行っています。

そこでお願いです。今からでも十分間に合います。どちらの時間帯でも結構ですのでぜひご参加ください。

伝統ある高女の格調高い合唱を、記念のステージで高らかに歌いあげましょう。

著書紹介

林 朝子さん(高8)は現在川崎市で書店を経営する傍ら、日本児童文学協会会員として活躍していますが、この度「岡本かの子」(多摩川新聞社刊・千五百円)を発売されました。

——多摩川の清く冷たくやはらかき水の心をだれに語りむ 岡本かの子——

少年少女向けですが、ぜひ一度手に取ってご覧ください。(高18)

あとがき

◆ 9年12月21日、全国高校駅伝初出場。都大路での陸上部の健闘は感激でした。県初優勝後陸上部OG会の後輩を思う姿と、同窓会長よりのおよびかけに、心よく協力して下さった会員の気持ちの結集は素晴らしい一言でした。

◆ 母校百周年まであと一年、記念事業各委員会が会議を重ねていきます。同窓生皆共にお祝いできたうれしいです。

◆ 学校の焼却炉はもう使われていません。ダイオキシン、環境ホルモン、地球温暖化等私達を取りまく環境の変化を知らされ、大変不安になりました。美しい地球の為に、子供達孫達の為に、出来ることは今すぐにと心強く思います。

編集委員長 吉野烈子(高9回)

第12号編集委員会

同窓会長 斎藤氏(女26) 副会長 角田智恵子(女39) 吉村晴子(高5) 吉野烈子(高9) 編集委員長 編集委員

9 編集委員 編集委員

笹本幸子(女44) 金井幸子(高3) 岡田俊子(高4) 善如寺尚子(高17) 設楽多恵子(高18) 網島千栄子(高23) 子(高19) 斎藤信子(高20) 佐藤春江・丸山ちひろ(高21) 小原原英子・田中和子(高22) 加藤寿美子・都丸俊江(高23) 富澤晶子(高24) 事務局・箕輪則子(高11) 渡辺やよい(高18)